

# 目 次

あいさつ

はじめに

## I 研究主題と設定の理由……………3

## II 研究の概要……………4

- 1 研究のねらい
- 2 研究の内容
- 3 研究の方法
- 4 研究の組織
- 5 研究の計画
- 6 研究の経過

## III 研究の実践……………7

- 1 全体計画・年間計画の見直し
- 2 単元計画の見直し
- 3 授業実践の見直し
- 4 地域の材（ひと・こと・もの）の見直し
- 5 実践事例
  - (1)生活科学習指導案・学びの実際（2年）
  - (2)総合的な学習の時間学習指導案・学びの実際（4年）
  - (3)各学年の実践事例（1年・3年・5年・6年・特別支援）

## IV 研究のまとめ……………27

## V 指導・講評……………28

- 資料**
- ・研究構想（研究構想図・草津よいとこ学習年間計画）
  - ・全体計画（生活科、総合的な学習の時間）
  - ・年間計画（1～6年）
  - ・単元計画（1～6年）

おわりに

# あ い さ つ

群馬県小学校中学校教育研究会

小学校生活科・総合的な学習部会長 石原 隆志

(前橋市立上川淵小学校長)

第10回群馬県教育研究会「生活・総合的な学習の時間研究協議会」が、草津町立草津小学校で開催できましたことに、心から感謝申し上げます。新型コロナ感染防止のため、公開授業及び授業研究会等につきましては中止となりましたが、これまでの研究成果を研究紀要としてまとめていただきました草津小学校の皆様、そして、ご指導賜りました講師の先生方に深く感謝いたします。

さて、小学校では、本年度から新学習指導要領が全面実施となり、各学校ではコロナ禍の中、新しい生活様式の下で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善及びカリキュラムマネジメントの確立に向けて授業がスタートしました。「感染症対策によって満足な教育活動ができない」「できないから仕方がない」ではなく、「こんな状況下だからこそ最も大切にしたいことに取り組む」と考え、各学校がそれぞれの特色を生かし、工夫しながら教育課程を実施していることと思います。

過日、中央教育審議会から出された「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」において、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要である」と指摘されています。予測困難な時代に直面している現在、子供たちが生きる力を発揮していくためには、身近な生活に関わる見方・考え方を生かして自立した生活を豊かにしたり、実生活や実社会にある答えのない課題に対して、主体的・協働的に向き合い、自己の生き方を考えられるようにしたりすることが求められています。

草津小学校では、2年間の研究に取り組んでいただきました。「課題を追究していく草津っ子の育成～「草津よいとこ学習」を通して～」を研究主題として取り組んでいただいた本実践では、途中、臨時休校や分散登校の期間がありましたが、全体計画・年間計画や単元計画の見直し、授業実践の見直しにも取り組んでいただきました。また、児童にとって身近な「ひと・もの・こと」を地域の材として見直し、発達段階に応じた児童主体の課題探究学習が設定されました。「草津よいとこ学習」と名付けられた地域学習は、正に草津小学校の児童たちのオリジナルの学習であり、草津町の“宝”となることでしょう。児童たちの中には「草津町観光大使」として、将来活躍する人が出てくるかも知れません。

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会が大きく変化していく中で、果敢に研究に取り組んでいただいた草津町立草津小学校において、生活科・総合的な学習の時間の研究が、今後さらに発展していくとともに、その成果が県内の学校における日々の実践に活用され、子供たちの未来を明るく切り拓いていく一助となるものと期待しています。

# はじめに

草津町立草津小学校長 丸山 三美

正に新学習指導要領の示す「予測困難な時代」を迎えています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての社会活動や日常生活が制限を受けています。学校も長期にわたる休校や密を伴う学習活動の制限等、通常の教育活動ができない状況になっています。

本校では昨年度より、群馬県教育研究会「生活科・総合的な学習研究協議会」の実践発表に向け研修に取り組んできました。学習指導要領改訂の重点である「カリキュラムマネジメント」を推進し、「社会に開かれた教育課程」を編成してきました。また、「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けて、教科指導の計画や授業づくり、学習評価等の見直しに取り組んできました。今年度は更なる授業実践の積み上げを予定していましたが、感染症のため授業時数の削減、校外学習や地域人材との交流の自粛、対面授業や話し合い活動の制限等、研究計画の変更を余儀なくされてしまいました。群馬県教育委員会指導主事を交え何度も協議を重ね、公開授業や授業研究会は難しいが、「平常時の参考となる資料づくり」へと方向を変え、研修を進めていくこととしました。

研究主題である「課題を追究していく草津っ子の育成」の達成に向け、主体的に課題を設定し、追究・まとめを進めていけるよう、児童にとって身近な題材を扱う地域学習の再編成に取り組みました。より明確に地域題材を意識できるよう地域学習の名称を「草津よいとこ学習」とし、草津に関わるひと・こと・ものを洗い出しました。また、学年ごとに各教科や行事等の関連（横断性）や他学年との関連（系統性）を整理し、6年間のストーリー性のある教育課程を編成しました。学習スタイルとして、探究プロセス「課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現」がスパイラルに連続していくことや、授業実践として、3つの学習過程「課題設定（であう・つかむ）」「課題追究（はたらきかける・追究する）」「まとめ（ふりかえる・まとめる）」を基本的な学習活動として確認しました。

授業実践は予定通りにはできませんでしたが、「草津よいとこ学習」を通して、郷土である草津町のことを学び、草津温泉の貴重性や課題を知り、郷土を守り発展させていこうとする意欲を高めるとともに、郷土を愛する心と感謝の心が身に付いてきました。また、全教職員で新たな学校文化である「草津よいとこ学習」を立ち上げることができました。この児童の学びを広く地域に紹介・発信して、家庭や地域と一緒に学習を深め発展させていきたいと思えます。そして、今後児童一人一人が持続可能な社会の担い手として、自らの人生を主体的に切り拓き、他者と協働しながら、よりよい社会を創造していくことを期待しています。

最後になりますが、このような「生活科・総合的な学習の時間」の研究の機会ときめ細かなご配慮をくださった群馬県教育研究会の皆様、2年間の研修を推進するにあたり、群馬県教育委員会、吾妻教育事務所、草津町教育委員会の皆様には、多大なるご指導・ご意見をいただきました。厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

## I 研究主題と設定の理由

### 1 研究主題

課題を追究していく草津っ子の育成 ～ 「草津よいとこ学習」を通して～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 学校教育目標から

予測困難なこれからの社会を生きていく子どもたちには、変化に対し、受け身ではなく主体的に向き合いかかわり合う力、他者と協働し、課題を解決する力などが求められている。本校では、「自ら考え、正しく判断し、意欲的に行動できる草津っ子の育成」を学校教育目標として、これからの社会を生きる力・生き抜いていく力を児童に育てていくために取り組んでいる。

#### (2) 今日の教育課題から

学習指導要領の完全実施を受け、改訂の柱である「社会に開かれた教育課程」の実現により、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育むことにつなげていくことが求められている。本校の研究では、改訂の趣旨と教科のねらいが符合する「生活科・総合的な学習の時間」を中心に、教科間・学年間の横断的・系統的なつながりを重視した教育課程の編成に取り組むこととした。

生活科は、身近な人々、社会及び自然などの対象を、自分自身や自分の生活と関わらせて考え、その中での気づきを実生活に生かし、よりよい生活を自ら創りだしていくための資質・能力を身に付けていく教科である。同じく総合的な学習の時間は、各教科等で育まれた見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するものである。共に実生活や実社会の中から児童自身が気づき見出した疑問や課題に対し直接働きかけたり、友だちと協働して解決に導いたりしながら、よりよい生活や自己の生き方を考えていく教科であり、研究主題「課題を追究していく草津っ子の育成」につながるものとする。

#### (3) 児童の実態から

本校児童は、与えられた課題に対する取組は早いですが、じっくり考えたり最後まで粘り強く学習したりすることが苦手な児童が多い。新たな課題を見付けたり、自ら課題を解決しようと進んで探究したりする場面で、主体性に欠ける様子も見られる。また、自分の考えや調べてきた成果を伝え合う場面では、明確に伝えられない様子もある。そこで、最も身近である「自分の住む草津」のことを題材に、自分自身の疑問や興味関心をもったり、獲得した知識を友だちと伝え合ったりすることで、学習を深めることや、探究的な学習を通して学ぶ楽しさを児童一人一人が感じ取れるようにしていくことが必要であると考えた。

#### (4) 地域の実態から

本校のある草津町は、群馬県北西部に位置し、草津白根山の麓に広がる日本でも有数の観光地「草津温泉」にある。湯畑を中心とした温泉街に加え、周辺にはスキー場や多くのリゾートホテルがあり、年間300万人以上の観光客を受け入れている観光立町である。本白根山の噴火や新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全町民が危機感と復興・再建への熱意をもって、様々な取組を行い、ますます発展を続けている。保護者や地域は学校教育・青少年健全育成に関心が高く、冬季のスキー授業や毎朝の登校指導・読み聞かせ活動等にたくさんの協力を頂き豊かな教育活動が行われている。それらの方や学校評価の意見には「草津ならではの学習」の推進や次世代を担う児童の健全育成を望む声大きい。

## (5) 草津よいとこ学習について

「標高1200mの高冷地にある大都市」「温泉が湧き出す湯畑・源泉かけ流しの天然温泉」「強酸性の湯川を中和させる工場」「路面が温かくて雪が融ける道路」等、児童や町民、教員にとっては当たり前のことに映る草津の風景も、その驚くべき内容や人々の努力を理解している人は少ない。

これまで、地域学習や校外学習を通して、白根山の溶岩流が学校脇まで来ていたことや他地域では加水・加熱した温泉があることを知り、驚いたり疑問を深めたりする児童も多くみられた。探究への意欲の高まりを感じていたが、学年や教科間のつながりが少なく、単発のイメージが強かった。そこで、草津に関わるひと・こと・ものについて、生活科や総合的な学習の時間を中心に、各教科・行事との関連や学年の系統を整理し、発達段階に応じた児童主体の課題探究学習を進めることで研究主題及び学校教育目標に近づくと考えた。

6年間のストーリー性のある学びを通して、故郷草津と自己のよさに自信をもち、これからの社会をたくましく生き抜いていく力を身に付けてほしいと願い、「草津よいとこ学習」とした。

## II 研究の概要

### 1 研究のねらい

児童にとって身近な実社会である地域（草津町・草津温泉・草津白根山）を題材に、自分の課題をもち、現地に多く出かけたり、仲間と協力して繰り返し関わったりしながら、地域の中にある課題を解決することを通して、主体的に地域の中にある課題を追究・解決していく児童の育成を図る。

さらには、草津のひと・こと・ものよさに気付きながら、その一員である自分のよさに自信を持ち、郷土を愛する心と共に、次世代の社会を担う意欲的な児童の育成を図る。

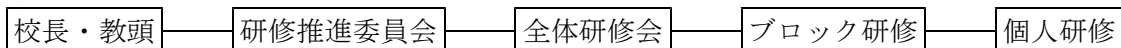
### 2 研究の内容

- (1) 全体計画・年間計画の見直し（生活科・総合的な学習の時間を核とした教科等横断的指導計画）
  - ・学年のつながりを重視した年間計画作り、学習歴を生かした探究課題を設定する。
- (2) 単元計画の見直し（年間のつながりや学習の積み重ねを重視した単元を計画）
  - ・学習活動（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）がつながり、発展していく。
- (3) 授業実践の見直し（児童主体の学習スタイルを構築）
  - ・ねらいの明確化、気付き・考え・議論する場の設定、まとめ・振り返りを重視、評価の工夫
- (4) 地域の材（ひと・こと・もの）の見直し
  - ・公共事業所、観光や商業施設、ゲストティーチャー等のリスト化と資料の蓄積を行う。

### 3 研究の方法

- ・原則として、月1回（月曜日）を研修日とする。
- ・全体研修会で方針を確認した後、ブロック（生活科・総合学習）に分かれて研修を行う。
- ・授業公開と授業研究会を行う。（指導主事・社会教育主事の要請訪問指導を含む）
- ・授業の準備（地域との連絡等）やまとめ（成果物の管理等）は随時行う。
- ・成果の検証を必ず行い、年間・単元・授業計画等へ留意点の加筆や修正・変更等を行う。

### 4 研究の組織




- ・研修推進委員会…研修の企画・運営を行う。（校長、教頭、教務、研修主任）
- ・拡大研修推進委員会…必要に応じ招集する。（生活科主任・総合主任・ブロック代表を加える）
- ・全体研修会…研修主題に対し実践の具現化を図る手立てを協議し、相互理解を図る。（全職員）

- ・ブロック研修…学年・学級の連携を図る。生活科（低学年・特別支援）と総合学習（中学年・高学年）
- ・個人研修…研究実践の具現化（年間・単元の計画、授業実践等）を図る。

## 5 研究の計画

月	研 修 内 容		県発表に向けて
4月	全体研修	研究主題、研究方法、研究内容、組織、研究計画の検討	
5月	全体・ブロック研修	生活科・総合学習について先行研究 全体計画・年間指導計画・単元計画の確認・作成	発表者を報告
6月	全体・ブロック研修	授業実践及び環境整備についての確認 参考：6月8日 指導主事要請訪問	日程会場を報告
7月	全体・ブロック研修	授業実践に向けて内容等の検討、環境整備	
夏季休業中	個人・ブロック研修	公開授業に向けて指導案・全体会資料の作成	
8月	全体・ブロック研修	公開授業に向けて指導案・全体会資料の検討・修正	案内・指導案作成
9月	全体・ブロック研修	公開授業に向けて指導案・全体会資料の校正	係打合せ、案内送付
10月	全体・ブロック研修	公開授業に向けて授業準備、資料準備	指導案・冊子印刷
11月	全体・ブロック研修	研究授業及び授業研究会 参考：11月11日 県教育研究会発表	公開授業、会場運営
12月	全体研修	研究紀要作成について	
1月	全体・ブロック研修	研究紀要作成	研究のまとめ作成
2月	全体研修	本年度のまとめと反省、次年度への課題及び研修の方向付け 参考：2月22日 町研究発表会	関プロ資料作成提出

## 6 研究の経過

月 日	研 修 内 容		県発表に向けて
4/20	第1回全体研修	「研究主題と内容、研究の進め方」について検討・協議 ・副主題の決定、縦断的横断的な資料の作成 ・草津の概要について（自然・歴史・文化・観光等）	開催方法検討
5/25	第2回全体研修 ブロック研修	・生活科・総合について先行研究 ・全体計画・年間指導計画・単元計画の確認・作成 ・指導案形式の検討（2年生活科・4年総合的な学習の時間）	県関係者と協議
6/8	第3回全体研修 指導主事 要請訪問	・コロナ禍における生活科・総合的な学習の時間について ・紙上発表に向けた準備（資料作成等）について 各計画（全体・年間・単元）の全面見直し 指導案を例示（はばプラⅡを参考に） 実践事例を紹介する（これまでの実践から）	発表会中止を打診  <b>平常時の 参考となる 資料づくり</b>
7/20	第4回全体研修 ブロック研修	・各計画（全体・年間・単元）の改正ポイントの確認 ・実践事例の作成ポイントの確認 ・資料の蓄積と環境整備の確認	発表会中止を通知 (研究紀要での報告へ)
8/5	現地視察研修	・草津の自然(チャツボミゴケ公園) と環境(品木ダム中和工場)の視察	
夏季休業中	個人・ブロック研修	・各計画（全体・年間・単元）の作成 ・実践事例の作成 ・資料の蓄積と環境整備	

8/31	第5回全体研修 ブログ研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>各計画（全体・年間・単元）の確認</li> <li>実践事例の確認</li> <li>今年度の実践について協議</li> </ul>	
9/30	第6回全体研修 ブログ研修 個人研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の実践計画（訪問見学・外部講師等）の作成</li> <li>校内発表（授業参観等）に向けた指導計画の作成</li> <li>実践事例は可能な限り最新のものにする</li> </ul>	関プロ大会申込
9月 ～ 11月	各学年での実践 個人研修 ブログ研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の実践及び実践事例の作成</li> <li>1年「あきをさがそう」西の河原公園散策</li> <li>2年「まちたんけん」湯畑で湯もみ体験</li> <li>3年「公共施設訪問」消防署・交番他見学</li> <li>4年「福祉学習」障害平等研修・各種体験（社会福祉協議会）</li> <li>5年「歴史と産業」富岡製糸場他見学</li> <li>6年「草津町の観光・産業」外部講師授業（観光協会職員）</li> </ul>	11/13関プロ千葉大会 web開催に参加
11/13	授業参観 社会教育主事 要請訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年「白根火山と草津温泉」外部講師（東工大火山研究所教授）</li> <li>外部人材の活用と留意点について（事前打ち合わせが重要）</li> <li>保護者や地域との連携について（情報の発信とデータ蓄積が大切）</li> </ul>	
12/21	第7回全体研修	作成資料の確認及び検討について	
冬季休業中	個人・ブログ研修	実践事例及び成果と課題の作成	
1/13	現地視察研修	冬季の草津について（スキースキーの歴史・クロスカンリースキー競技）	
1/25	第8回全体研修 ブログ研修	研究紀要の原稿の確認作成	研究のまとめ作成
2/15	第9回全体研修	町教育研究会（2/22）での発表に向けて →今年度中止	研究紀要の完成
3/15	第10回全体研修	本年度のまとめと反省、 次年度への課題及び研修の方向付け	研究紀要の発送配布 関プロ資料作成提出

### Ⅲ 研究の実践

#### 1 全体計画・年間計画の見直し「生活科・総合的な学習の時間を核とした教科等横断的指導計画」

全体計画は、新学習指導要領の規定に沿った内容へと全面的に改訂した。生活科と総合的な学習の関連性を持つため様式をそそえながら、①関係機関や児童・地域の実態や願い、②本校における教育目標、③生活科・総合的な学習の時間の目標、④研修で目指す児童の姿を確認した。次に、⑤目標を実現するためにふさわしい探究課題を学年ごとに洗い出し、各学年のテーマと主な探究課題を設定した。課題設定にあたっては、i 探究的な見方・考え方につながるか、ii 横断的・総合的な性格をもつか、iii よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくことにつながるかを考慮した。また、⑥学習を通して育成を目指す具体的な資質・能力を3つに区分して整理するとともに、⑦学習活動・指導方法・指導体制及び学習評価について確認した。更に、⑧各教科等で身に付けた資質・能力や⑨学校外・地域との関連が図られるように整理・表記した。

年間計画は、これまでの単元配列表の中央に「生活科・総合的な学習の時間」を配置し、各教科等のつながりを矢印で結び、関連性を可視化できるようにした。各教科で学ぶ内容と生活・総合で取り組む学習課題が相互に関連していることや計画性をもって指導に生かせるようにした。また、学習の際に活用する関係機関や外部指導者・連絡先等を明記し、効果的な活用に取り組めるようにした。これらの教科間の関連性や地域資源等の活用については、加筆・修正を加えながら蓄積し、次年度以降も効果的な活用が図られるようにしていく。

全職員で、様式や記載事項等を確認したことで、担当学年以外の内容も把握することができ、地域資源の活用の仕方や見直し・掘り起こし等の情報交換、学年や教科を越えた学習のつながりの確認や指導方法等の相談が密に行われるようになった。

#### 2 単元計画の見直し「年間のつながりや学習の積み重ねを重視した単元を計画」

単元計画の作成には「はばたく群馬の指導プランⅡ」を参考にした。最初に年間の流れや探究のプロセスが見える「単元イメージ図」を作成し、次に主な探究課題の「単元計画」を立案した。

単元イメージ図では、総合的な学習の探究プロセス「課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現」がスパイラルに連続していくことや、その連続は右肩上がりに高まりながらそれぞれの資質・能力を育成していくことなどを明確にするとともに可視化した。

単元計画では、主な探究課題について、「目標・探究課題・学習過程(学習活動・具体的な活動内容)」の項目で整理した。特に学習過程「つかむ・追究する・まとめる」(生活科は「であう・はたらきかける・ふりかえる」)の3つの過程において、子どもの意識の流れがスムーズにつながっていくように、基本的な学習活動についても確認をした。

過程と段階	基本的な学習活動	
【であう・つかむ】 ・問題を持ち、見通しをもつ段階	現在持っている 素朴な知識や概念を整理する	生活経験(内発的動機づけ)を思い出したり教科書等の情報資料(外発的動機づけ)を概観することから大まかな学習活動の見通しをもつ。
【はたらきかける・追究する】 ・調べ、考え、表現し、まとめる	追究の見通しを組み立て、既存知識を強化する  「深まった課題」	情報資料より新しい知識を習得した上で、「深まった課題」を設定し課題探究の学習に取り組む。 ・探究活動(情報収集) 資料、インターネット、見学訪問、取材インタビュー ・思考操作(情報整理・分析)



段階	の探究活動と、対話的活動や表現活動をして理解を深める	絵図の活用、カードや短冊を類別や関係づけ ・対話的活動 「なぜ」「どうして」「もっとくわしく」 ・表現活動 論述・表現物、討論・演劇・動画、ボランティア等
【ふりかえる・まとめる】 ・振り返り、つぎへつなぐ段階	学習を振り返り成果や次時の学習やこれから課題探究へ意欲をもつ	探究の成果や自己の成長を感じ取り、次時への意欲を高める。 (活動の広がり意識する) ・自己高揚感や自己認識(自己のよさや可能性) ・社会参加への意識 「自分たちにできること」「関心を持ち続けること」「社会全体でできること」等 ・成果物や自己の学習記録の蓄積(ポートフォリオ)

### 3 授業実践の見直し「児童主体の学習スタイルを構築」

本校では、これまで授業に集中して取り組める児童の育成を目指して基本的な授業スタイルづくりに取り組んできた。平成27年度から「特別支援教育」の指定を機にユニバーサルデザインの視点(視覚化・焦点化・共有化)を取り入れ、誰にでも分かる授業づくりを行ってきた。また、新学習指導要領改訂に伴い「主体的・対話的で深い学び」に向け、各教科で「考え、議論する」活動を取り入れ、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。

より主体的で深い学びにするためには、課題の設定が重要であるとして、身近な地域の題材を扱う生活科・総合的な学習の時間を中心に課題解決的な学習スタイルの構築を目指している。特に、3つの学習過程(①「である・つかむ(問題を持ち、見通しをもつ段階)」、「②はたらきかける・追究する(調べ、考え、表現し、まとめる段階)」、「③ふりかえる・まとめる(振り返り、つぎへつなぐ段階)」を基本とするとともに、子どもの意識の流れを広める活動(対話・探究等)やまとめる活動(整理・発表等)を大切にしていくことを確認し、実践につなげている。

今年度は感染症拡大のため、計画されていた学習ができずにいたが、安全対策を講じた上で規模を縮小して、各学年とも1回は校外に出での学習や外部講師を招いての学習を実施した。その後、単元計画に沿って授業実践を行うことができた。

- 9月28日 1年生活科「あきをさがそう」西の河原公園散策
- 9月30日 2年生活科「まちたんけん」湯畑で湯もみ体験
- 10月 3日 3年社会科・総合「公共施設訪問」消防署・交番他見学
- 9月15日 4年総合「福祉学習」障害平等研修・各種体験(社会福祉協議会)
- 9月30日 5年総合「歴史と産業」富岡製糸場他見学
- 11月11日 6年総合「草津町の観光・産業」外部講師授業(観光協会職員)



2年湯もみ体験



3年消防署見学



5年富岡製糸場見学

11月13日、5年生は外部講師として草津白根山の観測をしている東京工業大学草津白根火山観測所の寺田先生を招いて「白根火山と草津温泉」の授業を行った。大変興味深い内容なので、希望する保護者も参加できるよう授業参観として実施した。

白根火山の成り立ちや溶岩地形、マグマと地下水によって温泉となり、現在の湯畑周辺で湧出しているメカニズムをわかりやすく解説していただいた。「当たり前のように思っていた温泉は、とても珍しく貴重なことがわかった。」「スキー場の大斜面が溶岩の先端なんて知らなかった。」と、児童も保護者も火山と温泉の関係を興味深く学んでいた。



この授業の実施にあたり、吾妻教育事務所の社会教育主事より、外部人材の活用や保護者や地域との連携について指導を仰いだ。地域にいる人材を発掘するには、保護者をはじめ多くの人に学校の取組を理解してもらい、紹介してもらうこと。よい授業が行えるように事前の打ち合わせが重要で、打合せ項目を作成しておくことで短時間でできること。実践が繋がっていくように授業内容を発信していくことや資料の蓄積・修正をしっかりと行うことなど助言をいただいた。

#### 4 地域の材（ひと・こと・もの）の見直し 「地域資源のリスト化と蓄積」

これまでの学習の成果物や基礎的な資料を教室内外に掲示・保管することにより、学習の過程がわかり成果を振り返ることができると共に、これからの学習への予想と意欲をもたせることができる。



生活科  
ルーム  
掲示



よい  
とこ  
ろ  
ド  
掲  
示



講演  
資料  
・  
文  
献



参  
考  
文  
献  
・  
広  
報  
紙



図  
書  
コ  
ー  
ナ  
ー

今後は、各学年で保有している地域資源のリストを一元化するとともに、依頼・事前打ち合わせ・調整・準備・当日の手順・事後報告等の様式を整理し共有化を図っていきたい。また、地域に詳しい人材（協力者）の発掘も行い、学校支援センターコーディネーターとして委嘱していきたい。

## 5 実践事例

### (1) 生活科学学習指導案・学びの実際（2年）

## 生活科学学習指導案

### 単元名「つたわる 広がる わたしの生活」

令和元年 11 月 25 日（月）第 4 校時 生活科ルーム

2 年竹組 指導者 櫻井 彩

## I 単元構想

### 1 目標

町探検での出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを考えて伝えたいことを工夫することができ、身近な人と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

### 2 身に付けさせたい資質・能力及び児童の実態（男子 8 名、女子 8 名、計 16 名）

	身に付けさせたい資質・能力	児童の実態
知識及び技能の基礎	身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かり、互いに交流することのよさに気付く。	今までの町探検では、地域の人と関わる楽しさに気付いていた。しかし、互いに交流してよりよい新聞を作り出すことについては経験が少ないため、本単元において、友達と意見を出し合い、工夫することのよさに気付けるようにしたい。
思考力、判断力、表現力の基礎	伝える相手や目的に応じて、わかりやすい伝え方を考え、工夫して表現しようとしている。	保護者や施設の利用者へ伝えたいことをまとめる活動を行ってきた。新聞をよりよいものにするために、自分の意見を素直に表現したり、相手の意見を取り入れたりするなど、人と交流することのよさや楽しさを実感できるようにしたい。
学びに向かう力、人間性等	地域で関わった人のことや、関わりを通して分かったことを、自分の身近な人に伝えようとしている。	地域の人のもとへ行くことをとても楽しみにしており、積極的に地域の人に話しかけ交流しようとする姿が見られた。自分の気になったことを表現することへの意欲も高い。

### 3 単元計画（全 12 時間計画、5 は本時）

過程	時間	主な学習活動	評価の観点		
			関	思	気
であう	1	地域で関わった人のことを、これまでの地図や新聞などを見ながら振り返り、友達と伝えたいことや伝える相手、相手に適した表現方法を決める。	○	○	

		課題 草津町の人に向けて、草津町のお店のよさをつたえる新聞づくりをしよう。			
は た ら き か け る	2	自分の伝えたいことを友達と話し合い、新聞のレイアウトや記事の見出しを決める。		○	
	3	インタビューしたことを振り返りながら、新聞の記事を書く。	○	○	
	4				
	5	新聞を発表し合い、草津町の人立場に立って教えてほしいことを相手に伝える。それをもとに、新聞を改良する方法を考える。		○	○
	6	作品を改良する計画を立て、もっと調べたいことを話し合う。		○	○
	7	作品をさらによいものにするため、地域の人に聞きたいことを決めるなど、調べる準備をする。	○		
	8	手紙や電話、取材などの方法で、地域の人に質問をするなどして、必要な情報を集める。	○		○
	9	地域の人に聞いたことをもとに、作品を改良する。		○	○
ふ り か え る	10	学校に招待するための手紙やポスターを作り、身近な人々を招待する準備をしたり、発表会の練習をしたりする。	○	○	
	11	身近な人と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする児童	○		○
	12	保護者や地域の人など、身近な人々を招待し、新聞を使って、自分の心に残った地域の出来事を発表する。招待した人からの感想を聞くなどして、今までの活動を振り返る。			

## II 指導事例（5/12）

1 ねらい 「教えて！カード」を用いた伝え合いにより、相手の立場を想像し、伝える内容や方法に気付くことができる。

### 2 展開

主な学習活動 ☆児童の意識	指導上の留意点及び 支援・評価	時間
<p>1 めあてを明確に捉え、学習の見通しをもつ。</p> <p>☆今日は、草津町の人が教えてほしいことを見つけて、新聞をよくするのだな。</p> <p>☆草津町の人が教えてほしいことって、何だろう。</p> <p>☆新聞がもっとよくなったらうれしいな。</p>	<p>※めあてを提示することで、本時の学習の見通しをもてるようにする。</p>	3
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>〈めあて〉新聞を聞き合い、もっとパワーアップさせよう。</p> </div>		
<p>2 それぞれの班の中間発表を聞き、「教えて！カード」に教えてほしいことを書き込む。</p> <p>☆おだんごをこんな風を作っているなんて、知らなかった。</p> <p>☆働いている人はどんなお仕事をしているのかな。</p>	<p>※発表に入る前に相手意識を確認し、草津町の人視点で教えてほしいことを考えられるようにする。</p> <p>※教えてほしいことを共有しやすいように、拡大化した新</p>	10

<p>☆どうして、こんなにたくさん車があるのかな。 ☆草津町の人、このことを聞きたいんじゃないかな。</p> <p><b>3 「教えて！カード」を分類し、どのようにすればよりよい新聞になるのかを班で話し合う。</b></p> <p>☆〇〇はすぐに答えられるけど、□□はすぐにはわからないな。 ☆□□は答えられないから、お店の人に電話して聞いてみようかな。 ☆教えてほしいことがたくさんあるけれど、どれを教えてあげると草津町の人を楽しんでくれるかな。</p>	<p>聞の横に、付箋（教えて！カード）を貼る。</p> <p>※「教えて！カード」をすぐに答えがわかるもの『すぐに教えられるよ』と、すぐには答えがわからないもの『ちょっとまってね』、その他に分類する。 ※分類したもののの中から、草津町の人が教えてほしいようなことを班で相談し、記事に書く方法を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価項目】</b> 新聞を読む相手の立場を想像し、記事をよりよくする方法について気付いている。（話し合い）</p> </div>	17
<p><b>4 班ごとに話し合ったことを確認し、本時のまとめをする。</b></p> <p>☆この班は、自分たちも聞いてみたいと思ったから、〇〇のことを調べて書くのだな。 ☆□□の質問をした理由は、この記事を読んで、不思議に思ったからなのだな。 ☆私たちの班も、〇〇をインタビューした方がいいかもしれない。 ☆私たちの班とこの班が「教えて！カード」を選んだ理由は同じだな。 ☆□□という理由で、「教えて！カード」を書いてくれたのだな。 ☆私が書いた「教えて！カード」で他の班の記事がよくなりそうでよかったな。</p>	<p>※よりよくするために選んだ「教えて！カード」や、どのように解決していくのかを問いかけることで、次時にすることを明確にさせる。 ※相手の立場も考えられるように、班が参考にした「教えて！カード」を書いた児童に理由を問いかける。 ※「教えて！カード」を選んだ理由を問いかけ、全体に広げられるようにする。</p>	10
<p><b>5 めあてに沿って振り返る。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>〈振り返りの姿〉</b> ☆友だちからもらった「教えて！カード」を生かして、もっと新聞をパワーアップさせていこう。</p> </div> <p><b>6 次時の予告をする。</b></p>	<p>※次時に生かせるように、「なるほどなと思ったこと」、「次にやりたいこと」の二つの視点から振り返らせる。</p>	5



### Ⅲ 学びの実際

#### (1) 「である」過程における学び（第1時）

第1時、今まで行ってきた町探検について、地図を見ながら振り返り、誰かに草津町のお店のよさを伝えたいという思いをもった（図1）。1回目の町探検では、今まで自分たちが何気なく使っていた総合体育館や保健センターについて調べ、保護者にその報告をした。2回目は図書館やバスターミナルなどの公共施設に行き、使用するときのルールや施設について知らなかったことを施設の利用者に伝えた。そこで子どもたちは、「最初がおうちの人で、次はそこ（施設）に来た人に伝えたから、今度はもっとたくさんの人に伝えたい」と考えた。伝える手段として、

これまで伝える手段として用いてきた新聞を使いたいと考え、「草津町の人に向けて、草津町のお店のよさを伝える新聞作りをしよう」という課題を設定した。その後、子どもたちが主体となって学習計画を立て、本単元の見通しを立てた（図2）。



図1 町探検の地図

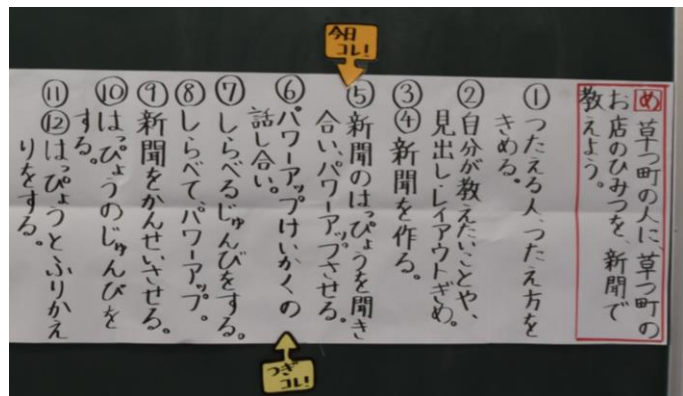


図2 子ども主体で考えた学習計画

#### (2) 「はたらきかける」過程における学び（第2時～第9時）

第2時～第4時、伝えたいことを班で話し合いながら決め、新聞作りを行った。

第2時、自分の伝えたいことや班として伝えたいことを話し合い、新聞のレイアウトを考えた。あらかじめ、教師がいくつかのレイアウトを準備しておき、子どもたちがその中からレイアウトを選んだ。子どもたちは、「このレイアウトならスペースが広いから、調理室の絵がかけそう」「たくさんの質問ができたから、一番細かく書けるレイアウトにしよう」など、自分たちが伝えたいことに合うレイアウトを話し合っ決めていた。さらに、「夫婦でやっていることにびっくりしたから、最初に、お店をやっている人の紹介をしたいな」と考え、記事を書く順番も話し合った（図3）。第3時～第4時、決めたレイアウトに沿って、新聞を作った。

第5時、子どもたちが作った新聞をお互いに発

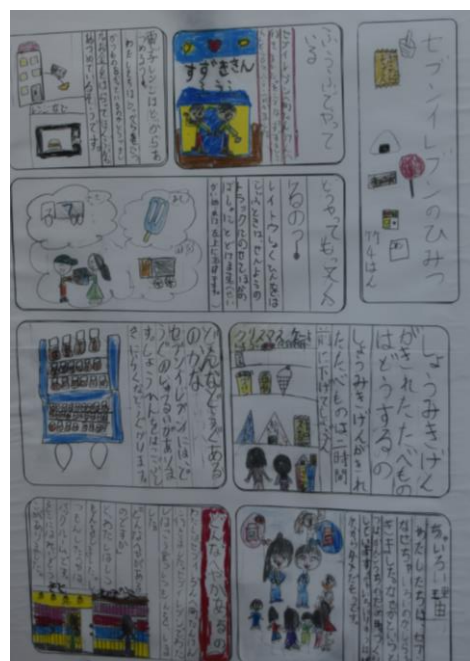


図3 新聞レイアウト（第4時の時点）

話し合い、新聞をよりよいものにするための話し合いをする活動を行った。話し手と聞き手に分かれ、聞き手は、草津町の人立場に立って、教えてほしいことを考え、「教えて！カード」に書き込んだ（図4）。その後、寄せられた「教えて！カード」を、すぐに答えられるものと、すぐには答えがわからないものに分類し、どのようにすれば新聞がよりよいものになるのかを話し合った。子どもたちは「だんごのしゅるいは、〇〇さんがメモしたけど、書いていなかったから書こう」「文字を少しだけつめて書けば、書けそうだね」などと話し合いながら、付け足す記事の内容を考えた。その後、全体で話し合ったことを確認し、本時のまとめを行った。教師が「なぜ『セブンにはやさいとかはあるの、ないの?』という質問をしたのかな」と問うと、子どもは「草津町の人がこの新聞を見たときに、やさいが売っているかがわかると、お買い物のときに便利だなと思ったから」と草津町の人視点に立って考えて答えた（図5）。それにより、「教えて！カード」を受け取った班の、「野菜のことも書きたい」という思いにつながった。

第6時～第9時、「教えて！カード」に書かれたことや町探検で今まで調べておいた資料を見返しながら、新聞を改良した。先ほどの野菜について書きたいと考えた班は、「もう一度探検には行けないけど、お母さんと買い物に行くときに何があるか見てくるよ」



図4 「教えて！カード」を書き込む様子

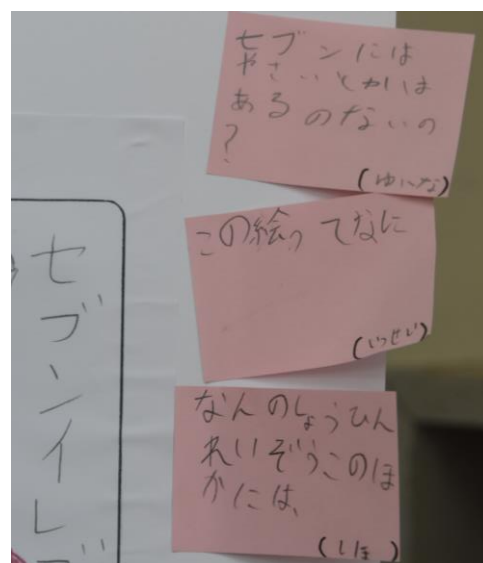


図5 「教えて！カード」に書いた内容



図6 改良後の新聞

「たしかキャベツがあった」などと今までのことを振り返った。探検のときに質問していなかったことがあった班は、お店の人に電話をしてインタビューをした。それにより、第5時に発表した新聞の内容よりも、伝える内容が明確化され、図3から図6のように改良された（図6）。

### (3) 「ふりかえる」過程における学び (第10時～第12時)

第10時、改良した新聞を発表する練習として、子どもたち同士で発表をし合った。第11時、第12時には、保護者や地域の人に発表するという予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、招待して発表することが難しく、実施できなかった。



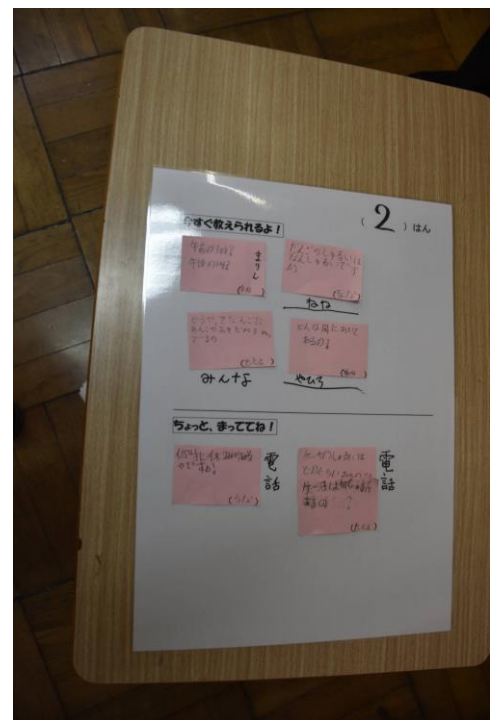
#### IV 成果と課題

##### (1) 成果

- ・子どもたちから多くの質問を引き出すための付箋の活用が有効であった。
- ・質問に対し、どのような方法で解決するかを話し合うために、付箋を分類する活動が効果的であった。
- ・気づきの質を高めるために、質問した意図や分類した理由を問いかけ、全体で共有することが有効であった。

##### (2) 課題

- ・相手意識を明確にするために、「身近な人」を対象とした方がよい。
- ・練り合いの時間を確保するために、発表の時間や練り合いの時間を2時間かけて行うことも検討していく。
- ・すぐには答えられない質問を解決するとき、電話以外の意見を出すために、電話や訪問のよさを学習させておくとよい。





(2) 総合的な学習の時間学習指導案・学びの実際（４年）

総合的な学習の時間 学習指導案

単元名「福祉について調べよう」

令和元年 1 1 月 8 日（金）第 3 校時 4 年松組教室

4 年松組 指導者 水出 英基

I 単元構想

1 目標

福祉に関する様々な体験を通して他者の気持ちを理解し、共に生きようとする心情を育むとともに、自分にできることを実践していこうとする態度を育てる。

2 身に付けさせたい資質・能力及び児童生徒の実態

（男子 1 9 名、女子 1 2 名、計 3 1 名）

	身に付けさせたい資質・能力	児童生徒の実態
知識・技能	疑似体験や交流などを通して障害がある人や高齢者の生活や思いについて理解する。	高齢者の方との同居や身近に高齢者がいる家庭は多いが、障害がある人との交流は少なく、生活や思いについての理解は進んでいない。
思考力・判断力・表現力等	障害がある人や高齢者の思いをもとに、これからの生活で実践していくべきことに気づき、実行しようとする。	学級活動などの学習では、これからの生活で実践していくべきことに気づき、実行しようとする児童も多い。
学びに向かう力、人間性等	疑似体験や交流などの活動に積極的に取り組む。	体験活動などには積極的に取り組むが、活動の終末まで意欲が続かない児童も多い。

3 単元計画（全 2 0 時間計画）

過程	時間	主な学習内容		評価の観点			
				関	思	技	知
つかむ	1	福祉についての学習課題を立てる。	福祉についての講話を聞く。				○
	2		障害平等研修（DET）体験を通して福祉について考える。	○	○		
	3		学習課題を設定する。		○		
	4		みんなにとってやさしい町にするためにはどうすればよいかを考えよう。				
	5	耳が不自由な人について調べる。	耳が不自由な人からお話を聞き、手話について学習する。	○			○
6	手話を使ってお話を調べる。		○	○			
7	福祉について調べる。		○	○			

追 求 す る	8	社	目が不自由な人に	目が不自由な人についてのお話を聞き、点字	○			○
	9	体	ついて調べる。	について学習する。				
	10	験		点字を使って目が不自由な人とお話を	○	○		
	11	す	目や体が不自由な	ブラインドウォークと車いすの体験と介助体	○			
	12	る	人の体験をする。	験をする。				
	13		高齢者福祉につい	高齢者の方にインタビューをする。	○			○
	14		て調べる。	装具を使って高齢者の疑似体験をする。				
ま と め る	15	学	んだことを新聞に	これまでの福祉体験を振り返り、福祉に対す	○	○		
	16	ま	とめる。	る自分の考えを新聞形式でまとめる。				
	17							
	18							
	19	学	んだことをこれか	これからの自分の生き方に結びつけて振り返		○		
	20	ら	の生活に生かす。	り、これから実践していくことについての考				
				えをまとめる。				
				みんなにとってやさしい町にするために自分にで				
				きることを考え、実行していこうとする児童				

## II 指導事例（10／20）

### 1 ねらい

点字を使ってお話をする活動を通して目の不自由な人の生活で大切なことを知り、みんなにとってやさしい町にするためにはどうすればよいかを考える。

### 2 展開

主な学習活動 ☆児童の意識	指導上の留意点及び 支援・評価	時間
<p>1 めあてを明確に捉え、学習の見通しをもつ。</p> <p>☆今日は、点字を使ってお話をするんだな。</p> <p>☆先日習ったことを思い出そう。</p> <p>☆上手く話すことができるかな。</p> <p>〈めあて〉 点字を使ってお話をする活動を通して目の不自由な人にとってやさしい町にするためにはどうすればよいかを考えよう。</p>	<p>・目の不自由な方3名と社会福祉協議会の方2名を紹介する。</p>	5
<p>2 目が不自由な方の生活や思いについてのお話を聞く。</p> <p>☆目が不自由な人は大変なんだなあ。</p> <p>☆目が不自由でもお話をすれば伝えられるぞ。</p>	<p>・集中してお話が聞けるように個別指導をする。</p>	10

<p>☆点字が上手にできるかなあ。</p>		
<p>3 点字を打って、目の不自由な人と点字を使ってお話をする。</p> <p>☆私の名前が分かるかなあ。</p> <p>☆名前が打てたので、つぎはどんなお話をしようかなあ。</p> <p>☆きちんとできるか心配だなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに自分の名前を点字で打ち、読んで頂く。</li> <li>・時間的な制約もあるので隣の席の児童と一緒に二人一組で活動に取り組みさせる。</li> <li>・戸惑っている児童には個別指導をする。</li> </ul>	20
<p>4 目の不自由な人にとってやさしい町にするためにはどうすればよいかを考え、ワークシートに記入する。</p> <p>☆点字を誰もが使えるようになればいいなあ。</p> <p>☆音が出るなど耳で聞いて分かるものが増えればいいなあ。</p> <p>☆困っている人がいたらやさしく教えてあげよう。</p> <p>☆静かにしないと困る人がいるんだなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の不自由な方が普段使っている音で伝える物を見せて頂き、目が不自由な人の生活についての理解を更に深めさせる。</li> <li>・考えが書けない児童には、机間指導をしながら助言する。</li> </ul> <div data-bbox="951 920 1370 1256" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【評価項目】</b></p> <p>目の不自由な人にとってやさしい町にするために自分が取り組んでいくべきことについて考えている。</p> <p>(発言・プリントの記述)</p> </div>	10
<p>5 本時の振り返りをする。</p>		
<p>〈振り返りの姿〉</p> <p>☆目が不自由な人にとって点字が使えたり、音で分かるものが多くなったりすればやさしい町になることがわかった。</p>		
<p>6 次時の予告をする。</p>		

### Ⅲ 学びの実際

#### (1) 「つかむ」過程における学び(第1時～第4時)

第1時では、町の社会福祉協議会事務局の職員の方に来ていただいて、福祉についてのお話をしていただいた。草津町として取り組んでいる福祉活動の内容やこれから自分たちが体験することについてつかむことができた(図1)。第2時と第3時では、障害平等研修(DET)を体験した。車椅子を使って生活する人たちに来ていただき



図1 福祉についてのお話を聞く様子

て、障害とは何かについてグループでの話し合いを通して考えることができた。はじめは、障害＝障害者と考えていた児童が多く見られたが、車椅子を使って生活している人にとっては道路に落ちている石こそが障害であることなどを知り、普段の生活を妨げるものが障害であり、誰にとっても障害のない暮らしやすい環境について考えることができた（図2）。第4時では、第1時から第3時の福祉講話や障害平等研修を通して考えたことをもとに、「みんなにとってやさしい町にするためにはどうすればよいか」についての学習課題を考えた。



図2 障害平等研修での話し合いの様子

福祉とは、(ふ)ふだんの (く)くらしの (し)しあわせ ということだそうです。私はこの授業で、人によっていろいろな幸せがあるということや一人一人がいろいろな人と関わりあったり、支えあったりしてくらしているということについて調べてみたいです。(4年松組 女子)

しょうがいはい、人だけのことだと思っている人が多くいますが、本当はちがいます。人だけではありません。階だんや高いものやエレベーターなども、車いすの人にとってはしょうがいです。ぼくは、そのことについて調べてみたいです。(4年松組 男子)

## (2) 「追究する」過程における学び(第5時～第14時)

第5時から第7時では、「耳が不自由な人にとってやさしい町にするためにはどうすればよいか。」をテーマに学習に取り組んだ。まず、第5時と第6時では、草津町の手話ボランティアサークルの方々に来ていただいて手話についての学習をした。手話で話すにあたっては、手や指の動きだけではなく、顔の表情や口の動き、そして実際に話すときは、声を出しながら大きなジェスチャーで話すことの大切さなどを学んだ。第7時では、耳の不自由な方に来ていただいて、手話を使ってお話をしたり、実際の生活で使っている振動で起こす目覚まし時計や押すと光るインターホンなどを見せていただいた(図3)。



図3 手話を使ってお話をする様子

耳の不自由な人は、目覚まし時計の音が聞こえなかったり、赤ちゃんの泣く声が聞こえなかったり、色々なことがとても大変です。そういう時には、助けてあげたいです。(4年松組 男子)

手話は手だけで伝えるのではなく、表情などもとても重要です。手話をたくさん覚えて使ってみてください。(4年松組 男子)

第8時から第10時では、「目が不自由な人にとってやさしい町にするためにはどうすればよいか。」をテーマに学習に取り組んだ。まず、第8時と第9時では、草津町の点字ボランティアサークルの方々に来ていただいて点字についての学習をした。点字を書くにあたっては、右から左へ書くことや1桁空けながら分かち書きをすること、「～は」や「～へ」などは発音通りに「～わ」や「～え」などと書くことなど、読む人にとって読みやすい文字となるよう配慮することの大切さなどを学んだ。第10時では、目の不自由な方に来ていただいて、



図4 点字を読んでいただく様子

普段の生活や思いについてのお話をうかがったあと、点字を使って自己紹介を行った。子どもたちは、自分の名前と自分の好きな食べ物やスポーツ、好きなことなどを点字で書いた。一人一人の点字の自己紹介を目の不自由な人に読んでいただいた（図4）。

点字はあまり使ったことがないけれど、目の不自由な人にとっては、かけがえのない文字なんだなあと思いました。これから、点字をもっと勉強して、使えるようになりたいです。（4年松組 女子）

目の不自由な人は、ぼくが思っていた以上に大変な生活をしていることが分かりました。でも、生活をサポートしてくれる人がいれば、安心して生活ができることも分かりました。（4年松組 男子）

第11時と第12時では、目や体が不自由な人の疑似体験を行った。二つのグループに分かれて、目の不自由な疑似体験としてブラインドウォークとその介助者を、体の不自由な疑似体験として車いす乗車とその介助者をそれぞれ体験した。子どもたちは、それぞれの疑似体験を通して、目の不自由な生活の不安さや車いす生活を送るうえでの障害について強く感じ取ることができた（図5・図6）。



図5 ブラインドウォークとその介助者 図6 車いす乗車とその介助者の体験

ブラインドウォークを体験しました。目を隠すと周りが見えなくなってとても不安になりました。サポートするときもうまくできるかととても不安な気持ちになりました。（4年松組 女子）

車いすの人は、階だんの所や急坂の所がのぼりづらかったり、あがれなかったりするので、そういう人のために工夫して、みんなが普通にらせるようにできたらいいと思います。（4年松組 女子）

車いすの体けんをしました。乗せてもらっているときには、急に上がる時がとてもこわかったので、おしてあげるときには、声かけをすることがとても大切だと思いました。（4年松組 男子）

第13時と第14時では、町の保健センターを会場にして、高齢者との交流会や高齢者疑似体験装具を使っての高齢者疑似体験を行った。家族に高齢者のいる家庭もあり、さらには将来誰もがなるであろう高齢者の疑似体験ということで、より身近な気持ちでこれからの自らの行動につなげて考えることができた（図7・図8）。



図7 高齢者体験（体が重い） 図8 高齢者体験（文字を読むのも大変）

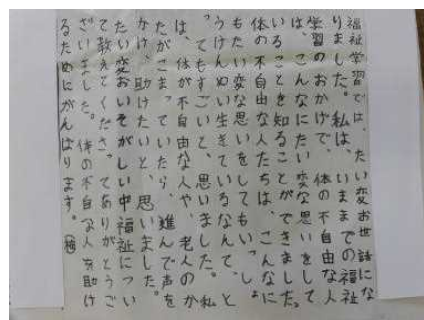
高れい者体験をしてみて、高れい者の人は体がとても重くて、歩くことが大変なことが分かりました。高れい者の人がいたら、荷物などを持ってあげたり手助けをしたりしたいです。（4年松組 男子）

高れい者ぎじ体験で体験してみたら、体が重くて、目が見えにくく、文字を書いたり読んだりすることがとても大変でした。困っているお年寄りの人がいたら助けてあげたいです。（4年松組 女子）



### (3) 「まとめる」過程における学び（第15時～第20時）

第15時から第18時では、5名程度のグループで、今回の福祉学習で学んだことや福祉に対する自分の考えを壁新聞形式でまとめた（図9）。



第19時と第20時では、これからの自分の生き方に結びつけて振り返り、実践していくことについてまとめた考えを発表した（図10）。

図9 壁新聞形式のまとめ

図10一人一人の考えを発表

体の不自由な人は、大変な思いをしながらも一生けん命に生活していて、すごいと思いました。困っている人がいたら、進んで声をかけて助けたいと思いました。（4年松組 女子）

福祉体験をしてみて分かったことは、体の不自由な人は大変なことで、高齢者の人は一人では生活していくことが大変で、一人一人の手助けが必要なんだということが分かりました。（4年松組 男子）

## IV 成果と課題

### (1) 成果

- ・体験活動のはじめには抵抗感のある児童も多く見られたが、耳や目の不自由な方や高齢者の方のお話を聞き、そのあと交流するなかで、児童の様子に変容が見られた。
- ・児童の手話や点字に取り組む様子を見ていると、手話や点字をするおもしろさから自分の手話や点字が耳や目の不自由な人に言葉として伝わる喜びに変わり、さらには「もっと伝えたい」という積極的な姿勢に変わっていった。
- ・手話や点字を通して積極的に会話をするなかで、障害者としてではなく、一対一の人間としてのやりとりになっていた。
- ・振り返りでは、机間巡視をしながら児童のワークシートを確認し、意図的に指名して発表させることを通して、子どもたちの言葉でまとめをすることができた。
- ・社会福祉協議会との打ち合せを密にすることで、しっかりとした連携を図ることができた。

### (2) 課題

- ・社会福祉協議会と連携してしっかりと計画された体験活動が中心となるため、子どもたちが自ら課題を見つけて主体的に取り組むという点では課題が残る。福祉についての学習課題を立てる過程をさらに充実させ、子どもたちが自ら課題を考え実行する活動にしていきたい。
- ・新聞等にまとめるだけでなく、自分たちでできる活動を考えて、それを外部機関に提案するようなまとめ方もよいと考えられる。
- ・社会福祉協議会が依頼してくれた外部講師の方との学習内容の事前の確認が不十分なこともあったので、外部講師やボランティアの方々を含めて事前の打ち合わせをさらに密にしていきたい。

### (3)各学年の実践事例

#### ○1年生の実践

##### 昨年度の取組

昨年度は、「たのしいあきいっぱい」の単元において、校庭や学校周辺を探索し、秋の葉やどんぐり、まつぼっくり探しなどに取り組んだ。きれいな形の葉っぱを探したり、大きなまつぼっくりを見つけたりして秋の遊びを楽しんだ。その後、自分たちで見つけた秋の葉や木の実を使っておもちゃ作りを行った。作ったおもちゃをお互いに遊び合い、より遊びやすくするための改善点に気づくことができた。

##### 今年度の取組

今年度、1年生は「どきどき わくわく、いいこと いっぱい 見つけたよ」というテーマで、生活科の単元の学習を通して学校や草津町の自然、友だちや自分のよさを見つける活動を、「たのしい秋いっぱい」の学習で行ってきた。

「であう」過程では、校外学習として西の河原公園へ行き、草津の自然に多く触れることができた。児童は「川が温かかったよ」「石がオレンジ色になっているよ」「魚がいない」「紅葉がきれいだね」など、草津町の特色である温泉の川や、豊かな自然についての気づきがあった。(図1)

「はたらきかける」過程では、校庭で自分たちが見つけた葉っぱ同士で「葉っぱじゃんけん」を行った。「きれいな葉っぱが勝ち」「丸い葉っぱが勝ち」といった条件で勝ち負けを決めることで、児童は自分の選んだ葉っぱのよさだけでなく、友だちが選んだ葉っぱにもいろいろなよいところがあるということに気づくことができた。(図2)また、児童が花壇で世話をしたマリーゴールドの花を使って「あきいろコースター」の染め出しを行った。最初は明るい黄色だった花を煮ることで茶色に変色することや、ミョウバンを加えた水を使うと色が鮮やかに着色できることなど、児童は驚きながら楽しんで活動に取り組み、自然のよさや楽しさを見つけることができた。その後、これまでの活動の中で見つけた秋の自然を使って「おもちゃづくり」の学習を行った。どんぐりやまつぼっくりなどの秋の自然を活かしながらそれぞれおもちゃを作る中で、作った楽器の音を聞き比べて中に入れる実の数や種類を変えてみたり、どんぐりごまを回しながら軸の長さを変えたりして工夫することができた。友だちのおもちゃで遊んでみることで、そのおもちゃのよいところを見つけたり、自分のおもちゃ作りによりアイデアを取り入れたりしていた。

「ふりかえる」過程として、こども園との交流会で、児童が作ったおもちゃと一緒に遊ぶ活動を設定している。児童は「こども園の子が遊べるように」という相手意識をもちながら試しの遊びをすることで、より遊びやすい、楽しいおもちゃ作りを目指すことができた。けん玉の紐の長さを調節したり、的入れの的を大きくしたり点数をつけたりして、楽しく遊べるように考えながらおもちゃを改良していた。また、児童同士で遊ぶ活動を取り入れ、交流会の練習を行った。的当てが当たったら一緒に喜んだり、実際にやってみせたりするなど、相手のことを考えながら教えようとしていた。(図3)

「草津よいとこ学習」を通して、子どもたちは地域の自然に触れることで、草津町がもつ特色やおもしろさを感じる事ができた。また、自他のよさを探ることの楽しさを感じ、互いに認め合おうとする意識をもつことができるようになった。



図1 「であう」過程



図2 「はたらきかける」過程



図3 「ふりかえる」過程

## ○3年生の実践

### 昨年度の取組

昨年度は、地域学習として「草津かるたのひみつ」に取り組み、草津かるたに出てくる自然、観光、人物等を通して草津のよさを見つけられるようにした。

はじめは、「草津かるた」の文字札と絵札を確認し、実際にかるた遊びをして、かるたに親しみながら草津町の自然や観光、人物等について興味を持った。その後、かるたの文字札と絵札を画用紙に書き写し、草津町の拡大地図に貼ってかるたマップを作成した。できあがったかるたマップを掲示し、いつでも目にできるようにした。さらに、遠足で行く場所が載っている札について調べ、実際に遠足に行った後、各自新聞形式でまとめた。その後、かるた大会を楽しみながら知ったことを確かめる活動を行った。自分たちが住んでいる草津のことでも知らないことがあるということに気づき、今まで知らなかった草津のことについて広く知ることができた。

### 今年度の取組

今年度は、地域学習を「草津よいとこ学習」と称して、学校全体で取り組んだ。主な学習過程を①「つかむ」②「追究する」③「まとめる」とし、児童が、より草津町のよさを見つけることができるようにした。

「つかむ」課程では、まず「草津かるた」にはどのような文字札と絵札があるかを、文字札と絵札の一覧表で確認した。草津町の自然や観光、人物等について知っていることには印をつけるなどして、可視化しながら草津町について知っていることなどを確かめた。その後、実際にかるた遊びを行うことで、一層、草津町の自然や観光、人物等について、興味を持つことができた。(図1)

「追究する」過程では、かるた地図を作成した。まず、文字札と絵札を用紙に書き写し、その札は草津町のどの辺りにあるかを、児童が知っている知識をもとに拡大地図上にまとめていった。誰も知らない札については、インターネットや草津町に詳しい保護者などから情報を得て作成した。そして、これまでの学習から、詳しく調べたいことを各自決めて調べることにした。インターネットや副読本「私たちの草津町」から調べ、さらに足りない部分は草津町出身の職員「草津先輩」に質問して教えてもらった。本来であれば、ここで、実際の場所を遠足の機会などを生かして見学に行きたいところであったが、今年度は叶わなかった。(図2)

「まとめる」過程では、インターネット、副読本「私たちの草津町」、「草津先輩」から得た情報を各自紙面にまとめた。発表を紙面交換形式とし、それを互いが見ることで、自身では調べられなかった情報や思いつかなかったレイアウトの仕方などを交流した。そして、最後に、もう一度かるた大会を行い、「つかむ」過程の時より草津のよさに気づき、親しみを持つことができた。(図3)

「草津よいとこ学習」を通して、自らの課題を見つけ、自身や友達、草津町のよさに気づくことができ、より草津町に親しみを持つことができた。



図1 「つかむ」過程



図2 「追究する」過程



図3 「まとめる」過程



## ○5年生の実践

### 昨年度の取組

昨年度は、地域学習として「おこめについて調べよう」に取り組んだ。草津の自然環境でお米が育つのかを予想し、お米についての課題を設定して調べ、まとめ、発表した。また、親子行事での飯盒炊さんを通して、お米の調理の仕方を学んだ。

はじめは、お米のスケッチ、稲穂やお米に実際に触れてみるなどの活動を通して、おこめについて興味をもった。その後、バケツ稲作りに取り組み、お米の生育を確かめた。また、並行して調べ学習を行い、調べた内容を壁新聞にまとめ、発表会を行った。

### 今年度の取組

今年度は、地域学習を「草津よいとこ学習」と称して学校全体で取り組んだ。主な学習内容を①「つかむ」②「追究する」③「まとめる」とし、子どもたちが「実社会とつながる課題に向き合い、考え、実践し、自他と社会に感謝できる子」となるよう、草津の事柄について学習した。

①「つかむ」過程では、まず、粳穀、玄米、白米、稲穂のスケッチを行い、実際に触れてみることで、普段食べているお米との違いを確かめた。また、「草津町の気候でお米が育つのか」というめあてをもとに、自分たちが疑問に感じたこと、興味を持ったことをまとめ、調べ学習の課題を精選した。(図1)

②「追究する」過程では、バケツ稲作りと、お米についてのプレゼンテーションの作成に取り組んだ。バケツ稲作りは、班別活動とし、6月に田植え、7月から9月に稲の観察と水の調整、10月に稲刈りを行った。社会の学習で行った「米作りのさかんな地域ー山形県庄内平野ー」の学習をもとに取り組んだことで、お米を育てることを体感し、自他と社会に感謝する心を育むことができた。プレゼンテーションの作成では、ICTを活用したことで、児童が意欲を持ち、主体的に活動することができた。また、聞き手に分かりやすい映像効果を考えてことで、実社会につながる技能を身につけることができた。(図2)

③「まとめる」過程では、児童が作成したプレゼンテーションを実際に話しながら発表を行った。その様子は、ビデオカメラで映像に収めた。(図3)

「草津よいとこ学習」を通して、児童は、草津町が寒冷地であるということを実感し、お米の育ちづらい草津町では、どのような産業があるのだろうかという課題を見つけることができた。この単元の学習活動から、「草津の自然と産業について考えよう」の学習につなげることができた。



図1「つかむ」過程



図2「追究する」過程



図3「まとめる」過程

## ○6年生の実践

### 昨年度の取組

6年生は、昨年度、「草津町のよさをパンフレットで紹介しよう」において、班ごとに草津町についての調査活動を行い、パンフレット作りに取り組んだ。観光地である草津町では、たくさんの観光資源を活用しながら、さらには地域の人々の努力や工夫によって魅力ある町作りが行われている。そこで、この学習活動では、地域の人々の願いや思いを知り、地域を大切にしようとする態度を育てることをねらいとした。児童は、日常生活に溶け込んでいる観光資源について、疑問に思っていることやもっと知りたいことを課題として、班ごとに調査やインタビューなどを行い、パンフレットにまとめた。その後、ブース形式で発表を行い、付箋を用いて意見交流を行い、さらにパンフレットに修正を加えていった。児童は、それぞれが興味のあることを追究し、疑問点を明確にし、体裁の整ったパンフレットに仕上げることができた。

### 今年度の取組

今年度は、昨年度のパンフレット作りに加え、草津町のために自分たちができることを考えながら、学習を進めていった。

「つかむ」過程では、草津町観光協会の人から草津町の観光についてお話を聞く機会を設け、普段当たり前に思っていた観光資源の偉大さや、たくさんの観光客が草津町に訪れていること、たくさんの工夫や努力があることを改めて知り、草津町を誇りに思う気持ちや草津町をたくさんの人に伝えたいという気持ちを高めることができた。また、草津町が現在抱える問題（外国人観光客の増加を目指していること）についても話していただき、「その問題を解決するために自分たちができることは何だろう」と考え、「英語を用いて草津町を発信しよう」と課題を設定することができた。

(図1)

「追究する」過程では、班ごとにパンフレット作成を行った。まずは、日本語表記で作成した後、それをもとに児童1人1人が紹介する場所を選び、英語を用いて紹介文を作成した。外国語の授業で学習した表現を用いて紹介文を考えることで、児童は外国語の授業と関連を図りながら、学習したことを活用することができた。(図2)

「まとめる」過程では、児童が考えた紹介文を用いて英語表記のパンフレットを作成し、実際に紹介する活動を行った。「どんな情報があったら外国の人にとってよいか」、「どうしたら外国の人に見やすくなるか」など相手意識をもちながら考えて制作を行った。(図3)

「草津よいところ学習」を通して、児童は、改めて草津町のよさに気づき、大切にしたいという思いを高めることができた。また、実際に草津町が抱える課題について知ることによって、その課題を解決するために自分たちにできることを主体的に考え、実践することができた。



図1 「つかむ」過程

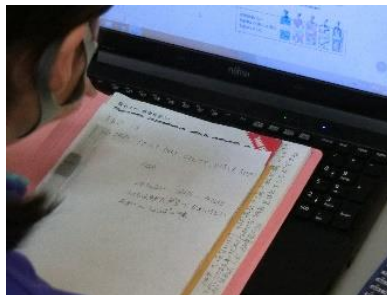


図2 「追究する」過程



図3 「まとめる」過程

## ○特別支援学級の実践

### 今年度の取組

本校の特別支援学級は、知的・情緒・病弱の3クラスある。交流学級の生活科・総合的な学習の時間につながるように、児童一人一人の実態や特性に応じて目標を立て、計画的に活動を行った。この活動を通して「課題を追究していく草津っ子の育成」のめあてに向かって以下のように取り組んだ。

#### 梅組（知的学級）の取組

梅組では、「秋の色づけ」において、「自分で想像したり考えたりして、色をつけよう」のめあてを設定した。

画用紙に色がつきそうな植物はどれかを想像しながら、植物を探しに行った。緑の葉だけではなく、赤や黄色などに色づいている葉や花を摘んだ。実際に画用紙に植物で色をつけてみると、想像した色がついたものや、想像よりも少し違う色になったものがあった。（図1）

この活動を通してすぐに結果を求めるのではなく、自分で想像したり考えたりする力を身に付けることができた。それによって、各学年の学習活動においても、自分で考えたことを新聞などにまとめることにつながった。



図1. 植物で色出しをする体験

#### 桜組（情緒学級）の取組

桜組では、「野菜を育てる」において「協力して育てよう」のめあてを設定した。

育てた野菜は、ミニトマト・ピーマン・スイカ・さつまいもである。夏の暑い時期での水やり、雑草とりなどを経験し、自分たちの野菜がすくすく成長していくのを目の当たりにしながら、活動した。（図2）

この活動を通して、野菜の成長を喜び楽しみに待つ気持ちや態度を身につけることができた。それによって、各学年の学習活動においても自ら考えたり、まとめたりするなどに、協力して取り組む意欲につながった。



図2. さつまいもの収穫

#### 桃組（病弱学級）の取組

桃組では、学年における学習活動の個別作業において「友達と協力して、草津町の魅力を再発見しよう」のめあてを設定した。

インタビューやインターネットを活用し、町の良さを探究する活動を行った。「草津町のおすすめ温泉」を担当し、大滝の湯について英語でパンフレットを作成した。（図3）

この活動を通して、町の素晴らしさを感じ、魅力を再発見することができた。それによって、各学年の学習活動においても、同級生と課題を共有し、町のためにできることを考え、課題解決に向けて意欲的に取り組む姿勢につながった。

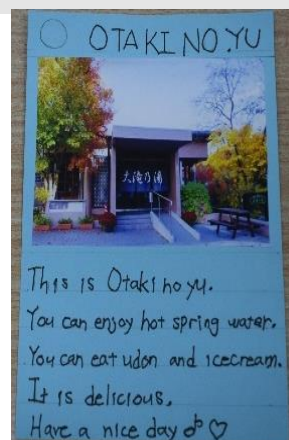


図3. 作成したパンフレット



#### IV 研究のまとめ

本校では、研修主題に迫るため、2年間を通し研究を行ってきた。今年度は、コロナ禍の中、学習活動の制限も多く、思うような実践を行うことができなかった。しかし、「できることに精一杯取り組もう」を合い言葉に取り組んだ。

最初に、新学習指導要領やはばたく群馬の指導プランⅡを活用し、本校における生活科及び総合的な学習の時間について検討した。また、吾妻教育事務所指導主事を招いた勉強会や先進校視察などを通して、生活科及び総合的な学習の時間を核とした教科等横断的指導計画、ならびに年間のつながりや学習の積み重ねを重視した単元計画を作成した。

そして、指導計画や単元計画にそった、児童主体の学習スタイルを構築していくことで、各学年内の発達課題に応じた学びを蓄積していくとともに、1年生から6年生まで系統的な学習活動へとつなげた。

さらに、これまでも活用してきた多くの地域の材（ひと・こと・もの）を見直し、整理した。教職員自らが地域の材について学ぶ研修を行い、地域のよさや魅力を理解し、学習活動に有機的に活用していく方法について身に付けることができるようにした。

その結果、次のような成果が得られたとともに、課題も明らかになった。

##### 1 研究の成果

- 指導計画や単元計画にそって、他教科等との関連や学習が積み重ねを意識した学習活動を行ったことは、学びの活用と補完につながった。児童は、生活科や総合的な学習の時間で身に付けたことを他教科等で活かしたり、他教科等で身に付けたことを生活科や総合的な学習の時間に活用したりするなど学びを深めることができた。
- 児童主体の学習スタイルを構築したことは、学習のねらいが明確となり、児童が自ら自分の思いや課題を追究する活動につながった。また、学習活動の中で、友達や教師、地域の方々などに関わり、協同的な学びに取り組むことができた。さらに、まとめや振り返りの中では、「～してみたい」「～するともっとよくなる」などの児童の思いが深まっていった。
- 地域の材を整理し、効果的に活用したことは、児童の興味・関心を喚起し、児童が自分の思いや課題を自分のこととして捉え、モチベーションを保ちながら、学習活動に取り組むことができた。また、地域に詳しい職員を「草津先輩」とし、児童の疑問に答えるなどの学習支援や、地域の材を活用する際の連絡・調整を行った。「草津先輩」の存在は、児童が思いを膨らませたり、課題を明確にすることにつながるるとともに、より効果的な地域の材の活用ができた。
- 本研究を通して、教師自ら児童が生活している地域を知るとともに、これまでの実践を振り返り、児童の学びの連続性を捉え、協働することの有用性を共通理解することができた。

##### 2 今後の課題

- 指導計画や単元計画の作成を通して、他教科等との関連や学びの連続性を捉えた学習活動につながった。さらに他教科等との系統性を見直し、充実させていくことで、学びの活用と補完につなげていく。
- 研究を通して構築した児童主体の学習スタイルについて、実践を重ね、本校ならではの学習スタイルとして確立していく。
- 地域の材の整理についてさらに進め、地域の材のバンク化を図るとともに、「草津先輩」を学校支援センターコーディネーターとして位置づけ、さらに地域の材の有機的な活用を図っていく。

## V 指導・講評

群馬県教育委員会 吾妻教育事務所  
指導主事 神邊 幹晴

### 1 はじめに

本年度、新型コロナウイルス感染防止対策の影響による年間指導計画等の変更や修正を余儀なくされ、研究を進めることが困難な状況の中、草津小学校におかれましては、歩みを止めず、研究内容を見直し、次年度につながる形で実践を進めていただきました。ありがとうございます。研究のまとめにあたり、三つの視点によりお話をさせていただきます。

### 2 実践内容について

#### (1) 諸計画の見直しについて

「草津よいとこ学習」で目指す児童の姿を共通理解し、全体計画、年間指導計画、生活科・総合的な学習の時間を核とした教科等横断的指導計画（単元配列表）を整備したことは大変すばらしい取組です。諸計画の見直しにより、学年、教科を越えて活用できる能力に関して、その連続性や発展性を見通した指導が可能となりました。諸計画を見直すためには、全職員の共通認識、協働作業が欠かせません。全職員が丸となって研究に携わり、諸計画を整備したことは大きな成果となりました。今後は、この計画を基に実践を重ね、さらに洗練された「草津よいとこ学習」を実現してほしいと考えます。

#### (2) 生活科の実践について

生活科では、対象に直接働きかけたり、その中で気付いたことなどを自分なりに表現したりする具体的な活動や体験を繰り返すことで、対象との関わりを深め、気付きの質を高められるような学習活動を設定することが大切です。草津小学校の実践では、こうした具体的な活動や体験を、児童の思いや願いを基に繰り返し実践することによって、主体的に取り組む児童の育成につながりました。児童が草津町で生活する住民の視点に立って考えたり、家族と一緒に出かけたときに疑問点を自分で解決しようとしたり、直接電話でインタビューしたりしたことなどは、今後の他の学習においても活用できるでしょう。また、学習指導要領の改訂のポイントの一つである幼児教育との円滑な接続を目指したスタートカリキュラムの実践を生活科の全体計画や年間計画に位置付けて取り組んでいることも注目すべき実践です。

#### (3) 総合的な学習の時間の実践について

総合的な学習の時間では、児童生徒が実社会や実生活の中から見出した疑問や関心に基づいて自ら課題を立て、その解決に向けて情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する活動を発展的に繰り返すことができる探究的な学習の充実を図ることが重要です。草津小学校では、「草津よいとこ学習」を通して育てたい資質・能力の育成に向けて、発達段階に応じた探究課題を設定し、探究的な学習を繰り返し行う単元計画を作成・実践していただきました。作成した単元計画を基に実践を重ねていくことで、児童の思考に沿った探究のプロセスや探究のサイクルを確立させていく大きな一歩となりました。また、実践の中で、地域の人材を有効に活用し、児童の気づきや考え方に深まりをもたせるなど、学習環境を整え、児童の資質・能力を高めることができました。今後も地域の「ひと、こと、もの」をたくさん活用し、よりよい実践を実施してほしいと思います。

### 3 おわりに

生活科・総合的な学習の時間の授業づくりを通して、カリキュラムマネジメントを推進し、社会に開かれた学校を目指す草津小学校の実践は、他校の模範となるものです。今後も改善・実施を行い、児童がさらに故郷に愛着をもち、誇りをもてるようになるとよいと思います。

草津小学校の皆様、すばらしい研究をありがとうございました。